

	Q11国の予算を活用して医療機器の購入・施設の改装・設備の新規導入はありましたか	Q12.①コロナ禍でも継続して実習を受け入れましたか	Q12.②実習を再開するにはどのようなことが必要と考えられますか
1	a: サチュレーションの台数を増やす。非接触型の台数を増やす。モニターの購入(2台)。PPEの在庫を多くストックする。	学校と協議の上機関も変更せず受け入れた。	学生の行動を把握して学校が証明する。
2			学生にPCR検査を実施してはどうか(公費)看護部や他部署の中にも反対者はいる、院内にコロナを持ち込みたくないという気持ち。
3	a: モニター、空気清浄機、発熱外来のプレハブ設置、患者との通信機(PHS)		
4	空気清浄機。		
5	a: 空気清浄機・遮閉アクリル板・検温モニター等。	b: 感染を遮断する方法がない。精神疾患の患者が感染予防対策がうまくできない。	ワクチン接種による感染リスクの低下。
6			
7	a: 空気清浄機。		
8	a: ズーニングのためのカーテン、感染症室増床分の病室へのHEPAフィルター機等。		
9	a: 透析の個人用、非接触型体温計、」パーテーション。	a: 感染拡大状況に応じてルールを決めた。	
10	a: 空気清浄機、陰圧テント、耐圧分散マットレス(消毒可能なもの)等多数。		事前検査と双方での情報共有。追跡のための情報開示。学生の教育。
11	a: サーマルAIカメラ。	a: 作業療法士。	学校との話し合いで実習生の意思確認で同意が得られれば、PCR検査、抗原検査の実施と体調経過の報告を頂く。
12	a: 自動手指消毒器、AIサーモグラフィー体温計。		
13	a: モニター、ベットバンウオシヤー等の購入。	b: 院内の感染対策で手いっぱいだった。	人員増、学生側の感染対策の現状を知る。
14		b: 外部からのコロナ持ち込みが怖いため。	コロナ収束。
15	a: サーマルカメラ。	b: 県内の発生状況により中止した時期があった。	学生自身の対策、濃厚接触者とならない実習内容の工夫。
16	a: コンテナ、感染予防のための設備等。		
17	a: 病室内見守りカメラ、タブレット、パーテーション等。		
18	a: 体温測定器、サーモグラフィー。	a: PCR検査実施と入院患者との接触を減らした。	PCR検査と学生の私生活にも注意してもらおう。
19	a: コンテナの設置、サーモグラフィー。		
20	a: 空気清浄機、グローブ、非接触型体温計、消毒液、感染防止の機材等		
21	a: 空気清浄機。	a: 日時を短縮したり調整し、全て受けた。追加実習も受けた。(実習全PCR検査必須)	
22	a: サーマルカメラ。	a: リモートで奨励提供しアドバイス等。	

23	a: 空気清浄機、非接触型体温計、消毒器の複数購入。		
24	a: クリーンパーテーション等。		
25			
26	a: パーテーション、アクリルボード、検体採取ボックス、CT等。		
27	a: 感染対策のためのミスト浴1台、AI検温器2台購入。		
28	a: 陰圧テント購入、PCR機器導入。		
29	a: 空気清浄機、モニター心電計、抗体検査、診察コール器、プレハブ設置、車内待機、自動手指消毒器、自動非接触型体温計等。	a: 10月～12月中旬。	実習全1～2週間の体調チェック表記載、学校連携、マスク、手指消毒液持参。
30	a: 非接触型体温計、パーテーション、パソコン(オンライン対応)等。	a: 訪問看護、介護施設のみ。	感染者減少
31			
32	a: 感染対策物品の購入(非接触型体温計等)		
33	a: 更衣室を増設した。		
34	a: 非接触型体温計、サーモカメラ、コンテナのレンタル、LAMP法検査機器。	a: 一時中断したが病院側、学校側で対応策を協議の上再開。緊急事態宣言後は再度中断。	
35	a: 発熱者専用診察ルームの設置や感染対策用備品等。廊下・病室のスクリーンの設置。	a: 一時中断したが病院側、学校側で対応策を協議の上再開。緊急事態宣言後は再度中断。	
36	a: エアースクリーン、ECGモニター。	a: 10月～実習開始。	学生控室場所の確保、学生指導者の別配置。
37	a: コンテナ、パーテーション、医療機器等。		
38	a: PCR検査用簡易防護シールド。	b: 感染対策として員外からの感染を防ぐため。患者の安全を第一に考え受け入れず。	実習前からの健康観察(2週間前)。
39	a: 使い捨ての紙おしぼり機。		感染の有無を客観的に知ること。
40	a: 発熱外来診察室の改装、殺菌ロボットの購入。	a: 5月開始の実習が7月になり、実習日数も少なくなった。学校側と感染対策について頻回に情報交換した。	学生の自粛生活が守られるかどうか。入院患者・家族に了承してもらうこと。病院の同意。実習病棟、病院内で感染症の発生がないが、完全に実習場所と分離できるかも必要かもしれない。
41	a: 透析送迎車の整備、面会者ゾーンの設置	b: 学校側からの中止。	
42		a: 基礎、成人実習。	ワクチン接種、健康管理徹底、」施設方針に従う。
43	a: サーマルカメラ、バイオハザード対応用クラスIIキャビネット、病棟モニター式。	a: 基礎、各論実習。	
44	a: クリーンパーテーション、ゾーニング用カーテン、発熱外来設置に関わる備品。		
45			
46	a: 空調設備。		
47	a: 簡易PCR検査、AIサーマルカメラ検温器、空気清浄機。	a: 3密を回避するため実習場所を分散した。使用する教室を増やし再少人数で実施した。	学生の行動歴の把握や健康観察が必要。